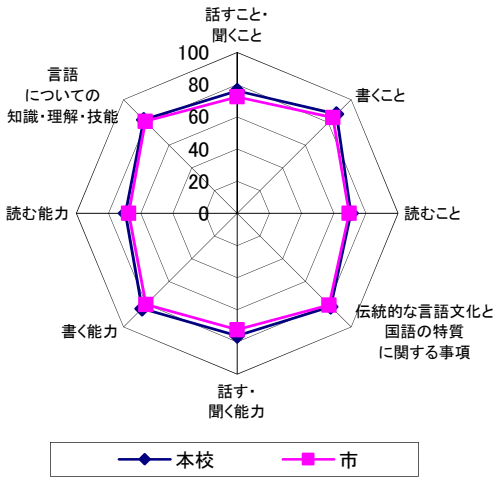


宇都宮市立一条中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	76.2	72.4	70.5
	書くこと	87.3	84.1	70.0
	読むこと	70.8	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.2	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	76.2	72.4	70.5
	書く能力	83.8	80.2	68.0
	読む能力	69.5	67.5	62.4
	言語についての知識・理解・技能	82.2	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

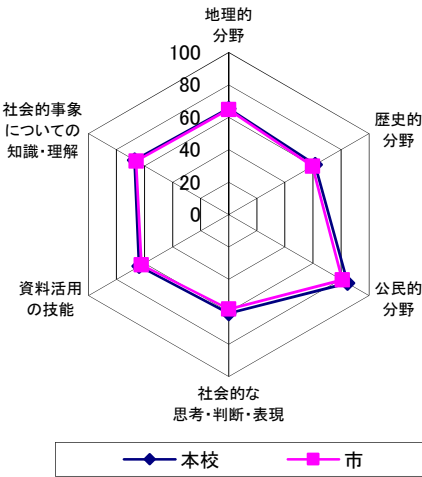
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均正答率を3.8ポイント上回っている。 ○特に、話の内容を正確に聞き取ることができる設問については、95.1%と高い正答率となっている。 ●相手の考えを尊重しながら、司会者としての役割を果たすことができる設問については、市の平均正答率を上回ってはいるものの、7割程度にとどまっており課題が見られる。	・話すことと聞くことは分けて考えることのできない活動であるので、話の内容を正確に聞き取ることには留まらず、その聞き取ったことをもとに話す力を伸ばすための活動を取り入れていきたい。
書くこと	市の平均正答率を3.1ポイント上回っている。 ○すべての設問で平均正答率が8割を超えており、特に読み取った内容を明確にして書くことができる設問においては9割を超えている。 ●自分の考えを明確にして書くことができる設問では、他の設問に比べて下回っている。	・字数や段落構成の条件に合わせて書くことは、日ごろの活動の中で行ってきたため、身に付いていると考えられる。書くことの能力は、書く機会を多く設けることでより高められると思われるので、自分の考えを明確にして書くということを意識させ、さらに書く能力の向上を図りたい。
読むこと	市の平均正答率をやや上回っている。 ○文学作品内容の読み取りにおける登場人物の人物像を捉えることができる設問と、説明文の読み取りにおける文章の構成や展開を捉えることができる設問では市の平均正答率を大きく上回っている。 ●文学作品・説明文どちらの読み取りにおいても正答率が8割を超えている設問がない。	・特に説明文の読解に苦手意識を抱いている生徒は多い。普段の読書活動においても、ほとんどの生徒が文学作品以外の文章を読む機会が極端に少ないことも原因の一つと考えられる。まずは様々な文章に触れる機会を増やし、読むことの経験を積ませたい。文学作品についても、授業の中で表現に着目し、情景や人物の心情を読み取ることを通して、さらなる能力の向上を図りたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均正答率をやや上回っている。 ○漢字の読み書きの問題については、おおむね正答率が8割を超えており、週1回の漢字テストを設定し、漢字練習の課題を続けてきた成果が見られる。 ●文法・語句に関する問題、特に用言の活用についての理解は市の平均を下回っているため、課題が見られる。	・漢字の読み書きについては、1年次から週1回の漢字テストを継続して行ってきた成果であると考えられる。今後も継続して実施する。 ・文法の学習については、授業の中で1・2年時の学習内容の復習を繰り返し行うことで、確実な定着を図りたい。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.4	64.8	54.5
	歴史的分野	61.6	59.7	52.2
	公民的分野	84.7	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	61.0	58.3	49.5
	資料活用 of 技能	63.8	62.2	53.1
	社会的事象についての知識・理解	67.1	66.0	57.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

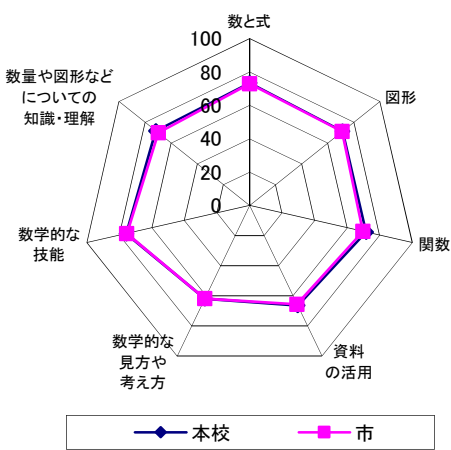
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○領域別正答率は市の平均を0. 6ポイント上回っている。特に、中国・四国地方における交通網の整備についての理解を問う問題の正答率は市の平均を13. 6ポイント上回っている。 ●内容別正答率では「世界から見た日本の姿」における日本の人口の過疎・過密問題への理解を問う問題の正答率が市の平均を3. 9ポイント下回っている。	・世界地図や地球儀などの教具を用いて学習課題の解決を図る授業を積極的に実施する。 ・複数の主題図やグラフを活用して位置や分布、推移などの情報を読み取らせる学習活動を授業で重点的に取り入れる。 ・多様な意見を尊重し、多面的・多角的な視点から社会的事象に気づかせるように、グループ活動や話し合い活動を積極的に導入する。
歴史的分野	○領域別正答率は市の平均を1. 9ポイント上回っている。特に、全国正答率が低い平安時代の藤原道長の政治について資料をもとに判断する問題では、市の平均を9. 8ポイント上回っている。 ●内容別正答率では「近世の日本」における江戸幕府による全国支配について、資料をもとに武家諸法度と関連付けて判断する問題の正答率が市の平均を2. 8ポイント下回っている。	・各時代の特徴を理解し、時代ごとの共通点や相違点について比較・検討ができるように、単元や分野全体を見通した学習指導を実施する。 ・多様な資料をもとに当時の社会における人々の生活の様子や歴史的事象の因果関係を読み取ることができるように、資料を取り扱う授業を積極的に取り入れる。
公民的分野	○領域別正答率は市の平均を3. 8ポイント上回っている。特に、効率と公正の判断基準について考察することを問う問題の正答率は市の平均を12. 2ポイント上回っている。 ●内容別正答率では「私たちの生活と現代社会」における日本における少子高齢化の進行についての理解を問う問題の正答率が市の平均を0. 3ポイント下回っている。	・対立と合意、効率と公正などの判断基準を考察するために生徒の身近にある現代社会の事例を題材に取り上げる学習活動を積極的に導入する。その際、グループ活動や話し合い活動を積極的に取り入れ、思考の深まりを促すような授業を展開する。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	73.5	73.0	67.5
	図形	71.3	71.1	59.5
	関数	71.6	69.7	60.0
	資料の活用	66.4	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	61.9	61.8	49.6
	数学的な技能	75.8	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	71.9	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

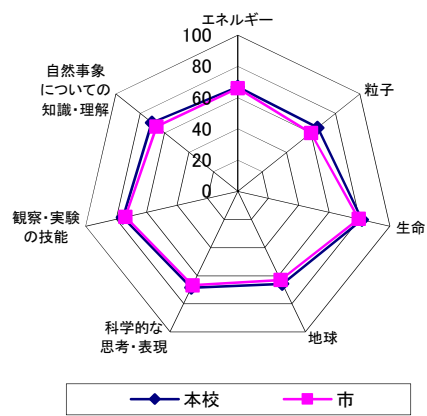
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域別正答率では市の平均を0. 5ポイント上回っており、中学3年時の学習内容に関する問題では7問中5問が市の平均を3ポイント以上上回っている。 ●連立方程式に関する問題については市の平均を2ポイント以上下回っており、特に「文章題を適切な連立方程式を立式する問題」では市の平均を4. 2ポイント下回っている。	・1, 2年時の内容で学習の定着が薄い単元について、授業の中で折に触れて補充学習を進めていく。重点的課題として「累乗を含む乗法」「連立方程式」に力を入れていく。 ・3年時の内容で力を入れたい単元は「平方根」であり、3年時の他の領域の問題を解くうえでも平方根の知識は必須になることから、その都度平方根の計算の確認をしつつ授業を展開していくことで補強していく。
図形	○領域別正答率は市の平均とほぼ同程度である。平面図形に関する問題については、すべて市の平均を上回っており、特に「多角形の内角の和の性質」を利用する問題では市の平均を3ポイント上回っている。 ●証明問題に関する問題では市の平均を下回っており、「三角形の合同条件」に関する問題では、市の平均を4. 1ポイント下回っている。	・証明問題に対しての苦手意識を軽減すべく、穴埋め形式の問題に取り組ませるなどすることで、証明の流れをしっかりと身に着けさせる。 ・三角形の合同・相似条件を確認し、解決の筋道をイメージしながら解いていく感覚を養うために、授業での証明問題解説時には文章と図の対応がわかりやすくなるよう心がけ、生徒の理解を促す。
関数	○領域別正答率は市の平均を1. 9ポイント上回っており、1次関数に関する問題では、市の平均より6. 9ポイント上回っている。また、正答率自体が低い記述問題でも市の平均正答率より1. 1ポイント上回っている。 ●「Xの2乗に比例する関数」の問題では、市の平均より1. 4ポイント下回っている。	・グラフから特徴を見出し、判断し表現する力は今後も重要であることから、市の平均より上回っている現状に満足せず、授業の中で積極的に、意見を出し合う学習や、他者の意見を参考に自分の意見をまとめる学習などを取り入れていく。 ・式、表、グラフを関連付けながら、各学年で学ぶ関数の共通点、相違点を強調し学習の補強をする。
資料の活用	○領域別正答率は市の平均を0. 8ポイント上回っている。特に「度数分布表から平均値を求める」問題では、正答率が市の平均を5. 2ポイント上回っている。 ●確率分野に関する正答率は市の平均と比べやや低くなっている。資料の整理と活用分野について、「ヒストグラムの特徴をもとに説明する」問題では、市の平均を1. 4ポイント下回っている。	・確率分野については、改めて学習内容の振り返りの時間を設け、樹形図、重複を許さない確率など問題の特徴ごとに理解を促すよう指導する。 ・ヒストグラムや度数分布表の数値の見方や特徴の抑え方などを復習し、そのうえでどのように表現すると伝わるのかを話し合い活動などを通して育んでいく。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	66.9	66.1	56.4
	粒子	65.3	60.0	57.4
	生命	81.6	79.4	75.2
	地球	65.7	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	68.6	66.8	57.2
	観察・実験の技能	75.5	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	70.4	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

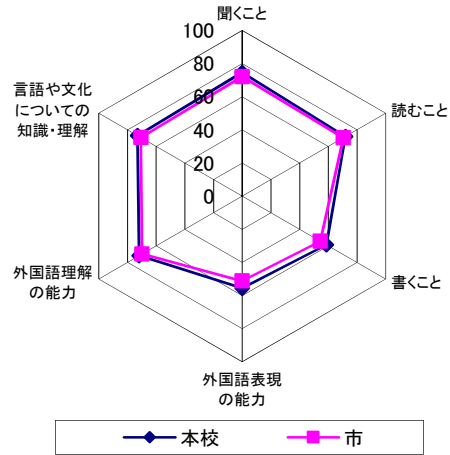
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○領域別正答率は市の平均を0.8ポイント上回っている。特に、音が耳に伝わるまでの経路を問う問題の正答率は、市の平均を4.2ポイント上回っている。 ●電流と磁界に関する正答率が全て市の平均より僅かに低い。特に、コイルと検流計の針のふれ方の関係を調べるための実験を問う問題の正答率が市の平均を3.1ポイント下回っている。	・実験のときに、目的とそのために必要となる条件について意識しながら実験に取り組ませる。 ・課題を解決するためには、どんな実験を行えばよいのかを考えさせる機会を多くつくる。
粒子	○領域別正答率は市の平均を5.3ポイント上回っている。特に、物質が水溶液に溶け、イオンに分かれることを問う問題では、市の平均を13.0ポイント上回っている。 ●酸化銅の化学変化のうち還元化学変化を選ぶ問題では、酸化の化学変化を選ぶ誤答が多かった。また、水の状態変化や、そのときの温度変化についての正答率が低かった。固体から液体に変化しているときの温度変化の理解度に課題が見られた。	・酸化などの化合と、酸化還元反応の違いを明確にさせたい。また、各化学変化の特徴を理解し、各化学変化と身のまわりの事物現象を関連付けられるよう、具体例を映像や資料で視覚的に伝えるなど、印象に残り定着するような工夫をする。 ・状態変化の途中において温度が一定になることを実験などで確認させる。
生命	○領域別正答率は市の平均を2.2ポイント上回っている。特に、植物の花のつくりを問う問題の正答率は、市の平均を6.0ポイント上回っている。 ●刺激を受けてから反応するまでの信号の経路について問う問題の正答率は、市の平均を5.0ポイント下回っている。意識して起こる反応と無意識で起こる反応の違いを理解できていない誤答が多かった。	・刺激を受けてから反応するまでの経路は、くり返し指導することで知識を定着させるとともに、ワークシートに実験の途中で気づいたことを記入する欄を作るなど、実験の結果が印象に残る工夫を行う。
地球	○領域別正答率は市の平均を2.6ポイント上回っている。特に、図や表を読みとり、風向について考える問題の正答率は、市の平均を4.2ポイント上回っている。 ●凝灰岩の層が地層を調べる手がかりになる理由を説明する問題の正答率は、市の平均を2.4ポイント下回っている。	・岩石や地層に関する基礎意識をもとに、大地の成り立ちについて考え、自分の言葉で説明させる機会を多くつくる。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	74.7	72.2	67.8
	読むこと	71.9	70.5	70.4
	書くこと	58.6	54.3	54.0
観点別	外国語表現の能力	55.6	51.2	49.2
	外国語理解の能力	71.8	69.8	65.8
	言語や文化についての知識・理解	73.0	70.7	74.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○本校の平均正答率は市の平均を2. 5ポイント上回っている。 ○リスニングの内容理解を得意とする生徒が多く正答率も8割を超えている問題が多い。 ●全体的にみるとよくできているが、英文の内容を聞き取り、必要な情報を理解するものを答える正答率が低かった。	・できる限り教師が英語を使って授業を行い、英語を聞く機会を増やしていく。 ・音読に重点を置き、聞こえたとおりに発音する練習を実施し、英語独特のリズムや発音に慣れさせる。
読むこと	○本校の平均正答率は市の平均1. 5ポイント上回っている。 ●語形・語法の知識・理解に課題が見られる。	・教科書の英文を活用して、効率よく内容を理解できるように指導していく。 ・基本的な文法が身に付くよう、ワークブックをより活用していく。
書くこと	○本校の平均正答率は市の平均を4. 3ポイント上回っている。 ○自分が小学生だった時のエピソードについて、まとめた内容で説明する文を書き表そうとする意欲が見られる。 ●正しく単語を書いたり正しい用法で書くことを苦手になっている生徒が多い。	・正しく単語を書く力がつくよう定期的に小テストをおこなっていく。 ・教科書でのキーセンテンスを何度も練習し、基本文の定着を図っていく。 ・習った文法事項を使って伝える活動を取り入れていく。

宇都宮市立一条中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
話し合いを通して考えを広げたり深めたりする学習の工夫を行う。	教科ごとに、考えを広げたり深めたりする学習の工夫を行う。 ・話し合い活動を積極的に取り入れる。 ・効果的な発問やワークシートの工夫をする。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の質問に対する肯定割合は、78.3%(3年生)、72.5%(2年生)、75.9%(1年生)で、どの学年も市の肯定割合より5.2～8.1ポイント低い。しかし、3年生は前年度より2ポイント程度上回った。 「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」の質問に対する肯定割合は、77.0%(3年生)、58.2%(2年生)、73.0%(1年生)で、1年生は市の肯定割合を上回っている。3年生は前年度より8ポイント上回り市の肯定割合に近づいた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている。」の質問に対する肯定割合は、82.2%(3年生)、67.3%(2年生)、85.1%(1年生)で、1年生は市の肯定割合を6.6ポイント上回っているものの、2・3年生は11～3ポイント程度下回っている。学習に対する気持ちや態度は、学習は「おもしろい・楽しいと思うことがある」肯定割合が85%程度で、「学習しているいろいろなことが分かったり、できるようになったりすることは楽しい」肯定割合が90%程度見られる。この気持ちや態度を大切にし、考えを広げたり深めたりする学習の工夫を次年度も継続して取り組み、ものごとをいろいろな視点や立場から考える力の育成を図りたい。